

日時：2017 年 7 月 28 日（火）

会場：鳥取県立博物館 2 階会議室

対象：県内教員 30 名

授業で活用できる資料やアイデアを紹介するコーナーに、美術部門では、コラージュの技法を用いてしおりを制作するワークショップブースを設けた。様々な色やタッチで塗られたグラシン紙の一部を切り取ってパーツをつくり、それらをラミネートフィルムの中で組み合わせて絵を完成させ、ラミネートした後、穴を空けてリボンを通して持ち帰れるようにした。用具・材料の他、制作の方法や注意点を体験しながら確認できるようにし、授業での実践にもつながるものとした。材料のグラシン紙は「はらぺこあおむし」で知られる絵本作家エリック・カールが好んで使ったものに近い素材で、コラージュに用いるパーツそのものも作りこむことによって、華やかで個性的な作品が出来上がった。



小学校、中学校の先生方の博物館との連携事例発表



「ちょこっとワークショップ7」

色のついたグラシン紙で小さなしおりをつくる

日時：2017 年 9 月 15 日（金）11：55～12：30

会場：鳥取県立博物館 3 階収蔵庫

対象：鳥取養護学校 中学部 2 名、教員 4 名、（計）8 名

鳥取養護学校の中学部の生徒が前田寛治について調べ学習をしている。一度作品を鑑賞したいが可能かと問い合わせがあり、展示期間ではなかったため、収蔵庫内で鑑賞する機会を作った。生徒は、日頃よりそれぞれの障がいに応じた車いすで生活しているため、収蔵庫内に巻きダンボールを敷いて、車いすで入室。学芸員が作品や作家についての解説をしたり、生徒が準備してきた質問に応えたりした。収蔵庫での鑑賞は、前田寛治と関わりのあった他の作家の作品も併せて鑑賞することが可能となり好評であった。



収蔵庫内での鑑賞の様子

ー制作と鑑賞を合わせてアートの楽しさを体感するー

平成 29 年度ワークショップ「光る絵の具で描いてみよう！」

日時：2017 年 9 月 26 日（火）

会場：鳥取県立博物館 2 階会議室

対象：八頭町立郡家西小学校 特別支援学級 児童 13 名、引率教員 6 名、（計）19 名

特別支援学級の 1 ～ 6 年生を対象とするワークショップ。年齢に幅があることから、活動にあまり抵抗感がなく、最後に達成感が感じられるものがよいと考え、光る絵の具で自由に描いてみる取り組みを企画した。いろいろな形に切った用紙を多めに準備して課題・教材を提示、選択できるようにし、制作後は、会議室の後ろの壁にマスキングテープで貼り付け、カウントダウンとともに、あらかじめ設置していたブラックライトを点灯させた。浮かび上がった絵に、子どもたちの歓声が上がっていた。後日、「ぼくは光るえのぐでかくのが楽しかったです。ライトをあてたら絵が光って『すごい、すごい。』と思いました。とてもきれいでした」等、感想が届いた。

ーワークシートを用いて作品を鑑賞するー

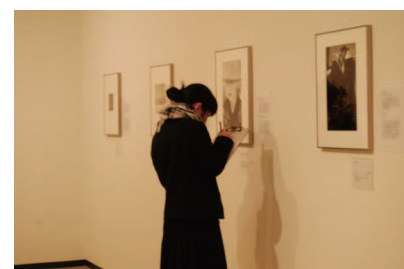
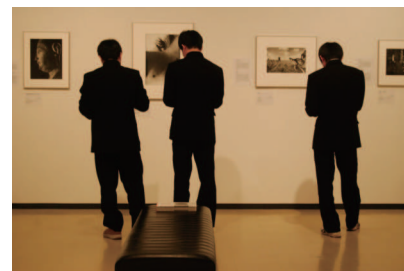
平成 29 年度企画展 「フジフィルム・フォトコレクション展」

日時：2017 年 12 月 13 日（水）

会場：鳥取県立博物館 展示室

対象：鳥取県立西高等学校 生徒

隣接する高等学校の芸術の授業の一環として来館。授業時間には移動時間も含まれるため、鑑賞時間確保のために、館内でクリップボードと鉛筆を準備し、担当教員が持参したワークシートを挟んで手渡すようにした。ワークシートを記入しながら熱心に鑑賞する生徒の姿が印象的だった。



感想をワークシートに書き込む

主な出品作品
田淵行男《初冬の浅間 黒斑山の中腹より》1940 年
杵島隆《老婆像》1948 年
荒木経惟《「センチメタルな旅」より》1971 年
奈良原一高《アメリカ・インディアン村の二つゴミ缶》1972 年

ー対話をしながら鑑賞するー

平成 30 年度企画展 「モダンアート再訪 ダリ、ウォーホールから草間彌生までー福岡市美術館コレクション」

日時：2018 年 2 月 9 日（金）11:00 ～ 12:30

会場：鳥取県立博物館 展示室

対象：青翔開智高等学校 1 年生 42 名、教員 3 名、（計）45 名

作品数点について、担当学芸員のファシリテーションで対話型鑑賞を行った。最初は、自分の見方や感じ方を言葉にすることに抵抗を感じていた生徒も多かったが、後半になるにつれ楽しそうに対話していた。

主な出品作品
三岸好太郎《海と射光》1934 年
サルバドール・ダリ《ポルト・リガトの聖母》1950 年
アンディ・ウォーホル《エルヴィス》1963 年
草間彌生《夏（1）》《夏（2）》1985 年



担当学芸員のファシリテーションで対話型鑑賞



自由に鑑賞しながら築いたことなどを友達と話す

ー対話をしながら鑑賞するー

平成 30 年度企画展 「モダンアート再訪 ダリ、ウォーホールから草間彌生までー福岡市美術館コレクション」 関連「ワイワイガヤガヤアート鑑賞」

日時：2018 年 2 月 23 日（火）、3 月 9 日（金）

会場：鳥取県立博物館 企画展会場内

対象：県教育委員会事務局 30 名（2 月 23 日）※プレミアムフライデーの一環
県庁職員 35 名（3 月 9 日）

対話型鑑賞への理解を深めることを目的として、県職員を対象に勤務終了後の夕刻、展示室に集まって「ワイワイガヤガヤ」話しながら、感じたことを対話する鑑賞会を行った。自分が発見したこと、感じたことを人に話す楽しさや、他の鑑賞者の気づきを聞いて見方や感じ方が深まることなどについて体感してもらった。

主な出品作品
三岸好太郎《海と射光》1934 年
サルバドール・ダリ《ポルト・リガトの聖母》1950 年
アンディ・ウォーホル《エルヴィス》1963 年
草間彌生《夏（1）》《夏（2）》1985 年

日時：2018 年 7 月 27 日（金）

会場：鳥取県立博物館 会議室

対象：鳥取市立面影小学校教員 26 名

夏休み期間中の校内研修を博物館内で行いたいとのことで、会議室での開催となった。学習指導要領で「表現と鑑賞は本来一体であり、相互に関連して働き合うことで児童の資質・能力を育成することができる」とされていることを踏まえて、当館所蔵の野崎信次郎の多色木版《白い対話（W）》、《白い対話（M）》の2点を見ながら対話型鑑賞を行った後、「私の対話」をテーマとして、コンテパステルを用いての制作を行った。《私とクラスの子どもの対話》、《私と娘の対話》など、先生方の個性豊かな作品が完成。夏休み中に校内に展示され、新学期の子どもたちを楽しませていた。



作品を前に対話型鑑賞をする



完成した作品を見せながら自分自身の「対話」について語る

日時：2018 年 8 月 2 日（木）

会場：鳥取県立博物館 展示室他

対象：県内教員

本ワークショップは、クレープ紙（造花の制作などに用いる着色紙）を水に浸し、その色がにじみ出ることを利用して色水をつくるものである。異なる色のクレープ紙を用いて混色の面白さなども味わえる。先生方は、児童・生徒の気持ちになって、カラフルな色水を光にかざして見たり、それらを用いて環境に働きかけたりして活動していた。



色水の作り方について説明を聞く



色水を並べて環境を変える

ー舞台裏を見るー
平成 30 年度教員研修

「鳥取市図画工作部会研修会バックヤードツアー」

日時：2018 年 8 月 8 日（水）

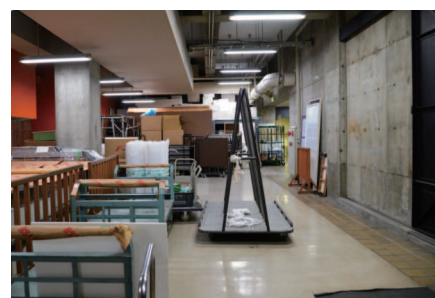
会場：鳥取県立博物館 会議室、第 3 特別展示室、収蔵庫

対象：鳥取市小学校教育研究会図画工作部会担当教員 87 名

鳥取市小学校教育研究会図画工作部会からの依頼があり、教員を対象にバックヤードツアー、当館普及事業の紹介、展示室での鑑賞等を行った。参加された先生方は、普段立ち入ることのできない収蔵庫の様子などを興味深く見学していた。



当館 3 階収蔵庫内



当館 1 階搬入口

ー放課後、展示室でアートに触れるー

平成 30 年度企画展「ミュージアムとの創造的対話 vol.2 空間／経験 そこで何が起こっているのか？」

館内普及事業

日時：2018 年 12 月 20 日（木）16:00 ～ 17:30

会場：鳥取県立博物館 第 1、第 2 特別展示室

対象：市内小学校 教員 4 名

梅田哲也、小山田徹、田口行弘の 3 名の作家を招聘し、ミュージアムの重要な要素／機能のひとつである「空間」とそこでの「経験」の在り方に着目し、作品と鑑賞者との間に新たな関係性を開くことを試みる作品を紹介した展覧会。「現代美術についてよく分からないので教えてほしい」という希望があり、先生方の来館に合わせて展示室を開け、担当学芸員が解説をした。



田口行弘によるインスタレーション



梅田哲也展示作品を解説

ー大胆なペインティングを体験するー

令和元年度展示鑑賞&ワークショップ「床一面に敷き詰めたグラシン紙に描いてみる！」

日時：2019年6月24日（日）

会場：鳥取市立久松小学校

対象：第5学年 児童 42名

「(博物館で)何か面白いことができないか」との相談を受け、担当教員と協議の上、展覧会閉幕後の展示室を活用した鑑賞&ワークショップを実施した。子どもたちは、最初にこのために展覧会終了後も片づけずに残しておいた作品数点について対話型鑑賞を行い、絵を見たときに抱くイメージが作品の色や形にも関係していることに気づく。その後、展示室という広い空間を活かして、床に敷き詰めたグラシン紙に、大きなストロークで大胆に描く活動を行った。本物の作品がある空間で、その色や形に触発されながら、自由にのびのびと表現する特別な時間となった。



展覧会閉幕後の展示室で対話型鑑賞



色や形がイメージを生み出すことを鑑賞によって確認した後、自分の表現したいイメージを自由に描いてみる。

ー対話で広げる学びの世界ー

令和元年度教員研修 「教員のための博物館の日 2019」

日時：2019年7月29日（月）10:00～15:40

会場：鳥取県立博物館 講堂他

講師：所沢市立三ヶ島中学校校長 沼田 芳行 氏・研修主任 佐藤 彩弥 氏

対象：県内教員 55名

午前中の講演では、「対話で広げる学びの世界」と題して、所沢市立三ヶ島中学校長の沼田 芳行先生と研修主任の佐藤 彩弥先生に校内研究として4年間取り組んでいる「朝鑑賞」の実践についてお話しいただいた。午後は、参加した先生方の興味に応じて、館内の自然、人文、美術の展示室に分かれて展示の鑑賞や学芸員との対話を行った。

主な出品作品
前田寛治《自画像》1928年
国頭繁次郎《記念碑的鳥》1968年
沖探容《四季富士図》
野崎信次郎《白い対話 M》《白い対話 W》1969年



展示室での対話型鑑賞



デジタル鑑賞教育コンテンツ体験

—お気に入りの1点を探す—

令和元年度企画展 「生誕 120 年 芸術写真の神様 塩谷定好とその時代」

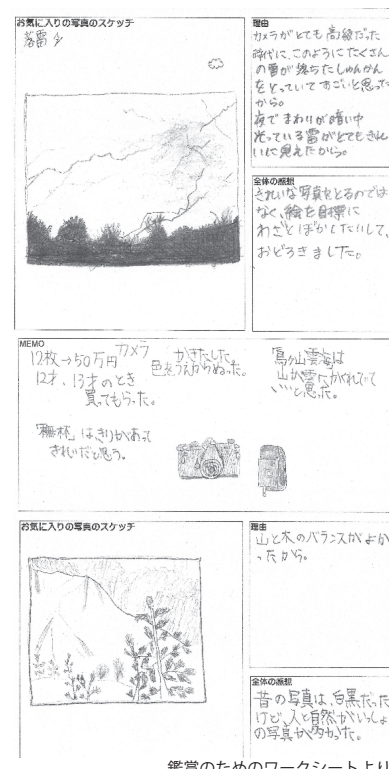
日時：2019 年 12 月 12 日（木）

会場：鳥取県立博物館 企画展 展示室

対象：鳥取市立久松小学校 第 6 学年 47 名

企画展担当学芸員から、展覧会の概要と写真家 塩谷定好の写真との出会いなどについて話を聞いた後、会場を自由に歩きながら自分のお気に入りの作品を見つけ、スケッチをしたり、なぜその作品を選んだかについて理由を書き留めたりした。事後の感想には、いろいろな写真を見て楽しかったといった感想の他、担当学芸員から聞いた「表現したいイメージに近づけるために塩谷が行っていた画像を拡大したり、縦に引き延ばしたりする工夫」についての記述もあり、子どもたちが楽しみながら新しい見方を学んだことが感じられた。

主な出品作品
塩谷定好《村の鳥瞰》1925 年
塩谷定好《静物（エリカボウレヤ）》1929 年
塩谷定好《園現》1970 年
山本牧彦《花を持てる少女 その 1》1926 年



鑑賞のためのワークシートより

—対話型鑑賞—

令和元年度企画展 「生誕 100 年 國領経郎展 —静寂なる砂の景—」

日時：2020 年 2 月 25 日（火）

会場：鳥取県立博物館 企画展 展示室

対象：鳥取市立久松小学校 第 6 学年 47 名

企画展担当学芸員から、展覧会の概要について話を聞いた後、1 枚の作品を鑑賞しながら全員で対話型鑑賞を行った。その後、クラスごとに分かれて会場を歩き、子どもたちが興味を持った作品数点を見ながら対話型鑑賞を行った。子どもたちは 12 月にも展示室内での鑑賞を経験しており、その際の経験が、注意深く作品を見つめて感じ取ったことを言葉にすることに生かされていた。また先生方も、対話型鑑賞を通して子どもたちが獲得する力について理解しておられることを感じた。

主な出品作品
國領経郎《東中野風景》1940 年
國領経郎《船のある風景》1962 年
國領経郎《海辺の風景》1971 年
國領経郎《杜を映す溜水》1993 年



担当学芸員がファシリテーターとなり対話型鑑賞を行う